

中学部 作業学習（ハーブ加工班） 学習指導案

| | | | | | |
|-----|-----|---------|---|---|---------|
| 日 時 | 平成 | 年 | 月 | 日 | 2・3校時 |
| 場 所 | 被服室 | | | | |
| 授業者 | | (T 1) | | | (T 2) |
| | | (T 3) | | | (T 4) |
| | | (T 5) | | | (T 6) |

1 題材名 ラベンダーのかおり袋作り パート2～ジャスコ販売会に向けて

2 目 標

- (1) 道具や部材を正しく扱い、手順に沿って作業を進める。
- (2) 目標としている個数を目指し、集中して作業に取り組む。
- (3) 自分の担当している工程の作業が終わった時に、自分から報告をする。

3 生徒と題材

(1) 生徒について

1年生4名、2年生2名、3年生4名の計10名(男子6名、女子4名)で構成される学習グループである。主な障害は知的障害、脳性まひ、中度感音性難聴、筋ジストロフィー症である。昨年度までの所属者は3名(3年生3名)で、7名(3年生1名と1、2年生)が今年度から新たに所属している。作業の流れについての大まかな見通しをもって作業時間内は集中して作業を行うことのできる生徒、情緒的な安定や健康状態、環境に左右されて作業を継続して行うことが難しいために一定の個数を仕上げた後、または一定の時間の後に休憩を設定することが必要である生徒、常時教師の支援を必要とする生徒など、実態の幅は広い。言語でのやりとりが難しい生徒が3名いるが、身振りやカードの使用、発声によって周囲とのコミュニケーションをとることができている。全員が言語による簡単な指示を理解することができる。

個別の指導計画からは「自分の役割や担当する工程の内容を理解して取り組むこと」「時間いっぱい作業に取り組む」が共通した課題として挙げられる。

これまで、5月から7月までの時期には、「ハーブランド作り」と「かおり袋の製作1」という題材に取り組んだ。「ハーブランド作り」では、外でラベンダーの苗植えや除草、水やり、収穫を行った。作業場所が広いことや、屋内での作業に比べて一つの工程を終えるまでの間隔が長いこと、移動しながらの作業が多いことなどから、作業に集中することが難しい生徒が多くみられた。「かおり袋作り1」では、それぞれが作業を行う場所が一定であること、繰り返しの作業が多くなったことから、自分の作業に見通しがもてるようになり、集中する様子が少しずつ増えてきた。個々の作業の場面では、教師に促されて依頼や報告を行うなど、まだ定着には至っていない面が多いが、作業前の始めの会のあいさつや、部屋を出るときのあいさつはできるようになってきている。

(2) 題材について

ハーブ加工班で行っている「ラベンダーのかおり袋作り」は、「ハーブランド」でラベンダーを育てるという作業と、収穫したラベンダーを使ってかおり袋を製作するという作業を組み合わせで行うものである。自分たちで育て、製品として加工することによって、意欲や期待感が高まるものと考えられる。

前題材と今回行っている「ラベンダーのかおり袋作り」は、しつけ縫い・ミシンがけ・ラベンダーを一袋分ずつケースに詰める・ネットを細かく切る・ネットとラベンダーを縫った袋に詰める・紙すきで製品カードを作るなどの工程がある。作業能力に幅のある集団であるため、工程を細かく分担し、それぞれの実態に応じた作業を行って製品を完成させている。担当する工程を分担したことにより、作業を行う間隔が短く、作業についての見通しがもちやすくなるため、落ち着いて作業に取り組む姿が期待できる。また、作業を分担して完成までに必要な役割が与えられることにより、班の一員として製品作りに携わることへの責任感をもつことや、互いの頑張りを

認め合うことなどを期待できる。

前の題材では、学校祭に向けての製作を行った。作業に慣れてくると、たくさんの数を仕上げることに意識が向くことが多くなり、手順や決まりを守って完成させることへの意識が薄くなったため、不良品や失敗したものが多く見られた。そこで、手順通りに仕上げることや、道具などを正しく扱うことを何度も確認しながら作業を行ったところ、題材の終わり頃には、手順通りに作業を行って完成させることを意識しながら、正しく仕上がった部材や製品を次の工程に渡すことができるようになった。学校祭当日は、全員で作り上げたものを自分たちで販売し、お客様の手に渡る姿を間近で見ることができたことにより、全員で作り上げたことへの喜びや、達成感を感じることができた。今回は12月に行われる大型店での販売を目標としている。本題材では、個人で設定する目標の数を前題材より増やすことや、一人一人が手順を守って作業を進めることにより、不良品や失敗の少ない製品作りを行おうとする意識や、自分が製作の一部を担っているという意識をもち、進んで作業を行う姿が期待できると考え、本題材を設定した。

(3) 指導について

生徒がそれぞれこの工程を担当して、どのくらいの頑張りができたかを知ることができるように、作業工程表と頑張り表や全体の出来高表を掲示する。また、作業の前に自分で目標を決めた上で取り組み、作業を振り返ることができるように、個人ごとに作業日誌の記入の時間を設ける。

道具を正しく扱うことができるように、道具を置く位置に印を付けたり、特に危険を伴う道具については作業の前に一緒に確認をしたりする時間をもつ。手順通りに行くことを意識することができるように、カードや手順表を使ったり、作業の前に一緒に確認する時間をもったりしながら作業に臨むようにする。自分から準備や後片付けに取り組みやすいように、作業場所や道具の置き場を決めておく。取り出しやすいように、使う道具はかごなどにまとめておく。

集中して取り組むことが難しい生徒については、一定の数が完成した後に休憩を入れる。休憩を取る場合は、タイマーを使い、休憩の終わりを知ることができるようにする。周りの音や視覚的刺激によって作業を継続することが難しい生徒には、作業をする位置を工夫したり、仕切りを活用したりする。

あいさつや報告などの定着を計るため、声の大きさや正しい言葉遣いなどの気を付ける点をカードなどで視覚的に示したり、作業の最初に教師とともに確認する時間を設けたりする。

清掃については、位置や方向が分かりやすいように、床にテープを張り、番号を付けておく。

毎回の作業の終わりの会では、個人ごとの頑張り発表（代表）と、全体の出来高表に完成した数のシールを張る活動を取り入れる。目標を達成したり、頑張ったりしたことを全体の場で称賛し、次の活動への意欲や自信へとつなげたい。

4 指導計画（総時数31時間）

| 小題材名 | 主な内容 | 時数 |
|-----------|---|-------------------|
| オリエンテーション | ・全体の作業内容の確認。 ・自分の工程の決定。 ・販売について（販売日時、場所の確認）。 | 2時間 |
| 製品作り | ・自分の担当する工程の作業を覚える。（4時間） ・製品を作る。（14時間） | 18時間 (本時15、16) |
| 販売、事後学習 | ・販売準備（ポスター作り、値段表作り、販売の模擬練習） ・販売（大型店に出かけ、実際に販売を行う） ・売り上げの確認、ごくろうさま会。 | 11時間 |

5 本時の計画（総時数 17、18 / 31時間）

(1) 全体の目標

- ・手順に沿って作業を行い、目標の数を目指して作業に取り組む。
- ・担当している作業の終わりに、報告をする。

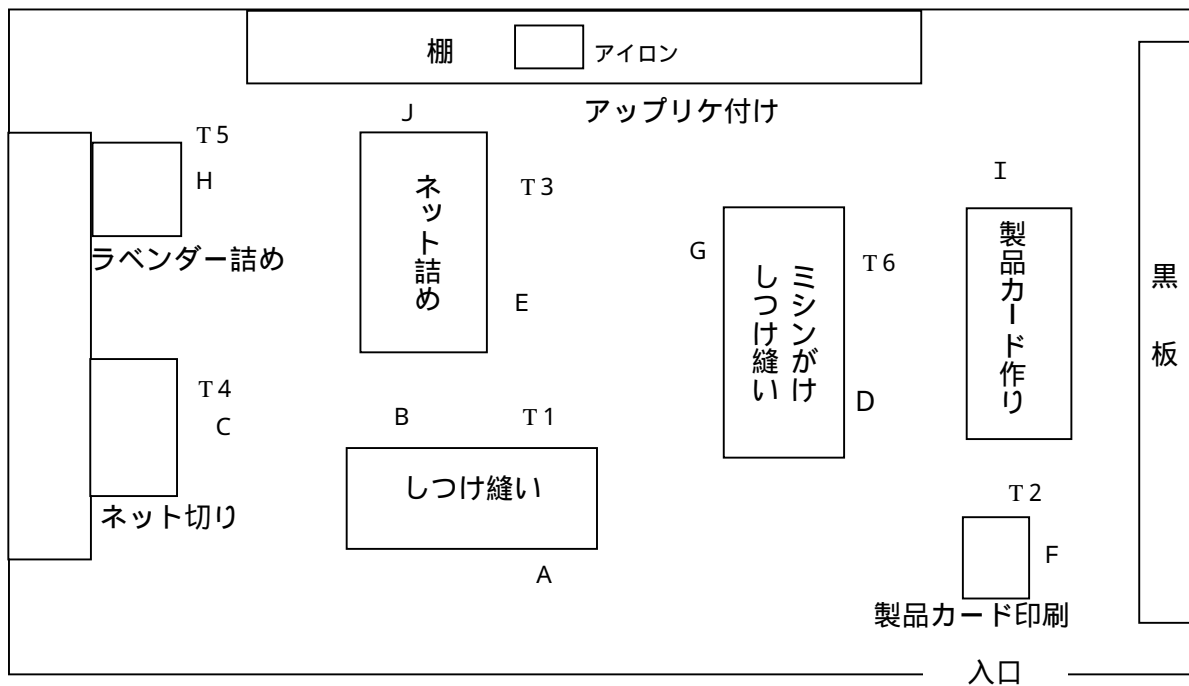
(2) 個別の目標

| 氏名 | 生徒の特性と様子 | 個別の指導計画の目標 | 題材の目標 | 本時の目標 |
|----|--|---|---|---|
| A | <p>体を大きく動かす作業は得意である。手元に集中し続けるような作業は苦手であるが、しつけ縫い作業の完成への称賛を受けることやシールを張ることを目標としながら、意欲をもって作業に取り組むことができるようになってきた。</p> <p>完成品について自信がないときに、報告の声が小さくなることが多い。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・目標の数を意識して、集中して作業を行う。 ・作業が終わった時に報告や依頼を相手に聞こえるような声で行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・針や糸、布などを正しく扱い、手順を守って5枚のしつけ縫いを仕上げる。 ・「できました」「お願いします」と自分から話す。 | <ul style="list-style-type: none"> ・針と糸を手順に従って扱い、玉結びを行ってから2枚分のしつけ縫いを行う。 ・補助線1本分のしつけ縫いが終わったら、縫った箇所をチェックしてから「できました」と報告する。 |
| B | <p>手先が器用であり、手縫い、機織り用の糸の仕分けや機織りなどの細かい作業を行うことができる。</p> <p>作業中に立ち上がってその場を走り回ることがあるが、促しによって次の内容を示したカードを見ることにより、自分の作業場所に戻ることができる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・手順表を見て、次に行うことを確認する。 ・完成した時に、「できました」と報告をしてから休憩に移る。 | <ul style="list-style-type: none"> ・手順表を自分で読み上げながら、作業や清掃に取り組む。 ・玉結びを行い、1枚分のしつけ縫いができたら報告をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・手元に置いた手順カードを教師と一緒に読みながら、しつけ縫いに取り組む。 ・袋の半分(片側)を縫い終わったら、「できました」と報告する。 |
| C | <p>ペーパーカッターを使用した作業に取り組んでいる。教師の動きを見て一連の動きを覚え、徐々に自分から部材へ手を伸ばすなどの意欲が見られるようになってきた。</p> <p>機械の音や飛行機・車の音、動きなどに興味をもち、活動の最中でも、興味のある対象物に向かって走り出すことが多い。休憩時間にそれらを見たり聞いたりする時間をもつことにより、作業中に席を離れることが減ってきた。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・手元に集中して安全に道具を使い、20分程度の作業を繰り返す。 ・教師の手や肩に触れた後で、完成品を手渡しして報告する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分から部材を準備して、安全にペーパーカッターを使いながら20分程度の作業に取り組む。 ・ネットを5枚入れ終わってすぐに、手をたたいたり、教師の手を取ったりして報告する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・手元を見て、ペーパーカッターを使った作業を20分程度続けて行う。 ・部材を準備した後に忘れずに教師の手をたたいて報告する。 |
| D | <p>所属して3年目であり、班のリーダーとなった。担当するミシン縫いについては、完成させる数の多さより、手順や出来栄を意識しながら、慎重に取り組むことができるようになってきた。</p> <p>失敗した時や困った時に、自分から報告や依頼をすることができずに、そのまま作業を進めていることがある。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・出来栄を意識しながら自分で決めた目標の数を完成させる。 ・報告を自分から行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・出来栄を確認してから次の作業へ進む。 ・失敗した時や、困ったことが起きた時に、自分から報告をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・返し縫いの長さや下糸の具合を自分で確認しながら作業を進める。 ・教師のそばに来て、完成や失敗の報告をする。 |

| | | | | |
|---|--|--|--|---|
| E | <p>副リーダーとしての責任感が強く、年下の生徒や児童への面倒見がよい。新しい活動や難しいことにも挑戦してみようという気持ちが高い。</p> <p>人への関心が高く、作業の途中で注意が向いてしまい、作業が滞ってしまうことがある。</p> <p>また、報告を自分から行うことができるが、相手を見ずに行うことがある。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の決めた目標に向かい集中して作業に取り組む。 ・場に応じた言葉遣いで報告や質問をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・仕上がりを自分で確認して、目標の数を完成させる。 ・正しい言葉遣いで、報告や質問を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・手元をよく見てネット詰めを行う。 ・スケールを使って一定の重さを量る。 ・一つ完成させるごとに、教師に顔を向けて報告する。 |
| F | <p>シール張りや紙ちぎりなど、これまでの学校生活で継続して行ってきた活動に対して、落ち着いて取り組むことができる。</p> <p>身近な大人とのかわりを好み、そばに担任がいて、言葉かけをすることで安心感をもつことができる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・はんこ押しの作業で両手に適度な力を入れる活動を行う。 ・インクを付けてはんこを押し、印字したカードを取り出すといった複数の活動を一人で行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・製品カードに文字が読み取れる濃さに印字されるように、手に力を入れてはんこ押しをする。 ・インクを付けてはんこを押し、印字したカードを取り出す活動を、一人で行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・はんこ押し教具の取っ手を、印字文字が読み取れる濃さになるまで押す。 ・印字後の製品カードを、一人で完成箱に入れる。 |
| G | <p>前の題材ではしつけ縫いを担当していたが、新しいことや難しいことにも挑戦しようという気持ちが芽生え、練習期間を経て、ミシンの担当となった。</p> <p>自信がない時や不安を感じた時に体調不良を訴えることがあるが、徐々に減ってきている。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・出来栄を意識しながら、自分で設定した目標数を完成させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ミシながけで曲がらずに返し縫いをする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・返し縫いのタイミングが分かり、布の端から端まで隙間なく縫う。 ・一枚縫い終わるごとに、教師の顔を見て報告する。 |
| H | <p>作業中に他の生徒の様子に注目することが多く、作業が止まってしまうことが多い。「はい」「いやだ」と声を出して気持ちを伝えることができる。</p> <p>報告の場面で教師から称賛を受けると、自分から返事をして、次の作業を行おうとする様子が増えてきた。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・30分で10個程度フィルムケースにラベンダーを詰める。 ・完成したことを理解し、自分からできたことを報告する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・フィルムケース10個分完成するまで手元を見て集中して取り組む。 ・フィルムケースがいっぱいになったら報告をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ラベンダーをフィルムケース8個分詰める。 ・フィルムケースを完成ボックスに入れたら次のケースを取って作業を始める。 ・フィルムケースの中の目印までラベンダーを入れたら、声を出して報告する。 |

| | | | | |
|---|--|---|--|---|
| I | <p>補聴器を装着しており、相手の口元の動きと合わせて言葉を判断して聞いている。</p> <p>工程の順番を覚え、紙すきとアイロンがけの作業を順番に沿って進めることができるようになってきた。</p> <p>紙すき製品に穴が開いた時や、端を破ってしまった時に、判断を教師に求めることが多い。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 一人で製品の出来栄を判断して紙すきやアイロンがけの作業を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 紙が破れないように意識して、紙すきやアイロンがけをする。 「確認をお願いします」等の丁寧な言葉遣いで報告や質問をする。 | <ul style="list-style-type: none"> はがき状の形に仕上げるように、方法を守って作業を進める。 「確認をお願いします」と報告したり、「～してください」と聞いたり。 |
| J | <p>好きなことや興味関心のあることへの集中力が高いため、そのことを取り入れた活動内容を設定すると持続して活動ができる。作業の途中で興味のあることを話してしまうこともあるが、目標を決めたり、好きなことを盛り込んだ約束をしたりすることにより我慢することができ、効率が上がってきた。</p> <p>報告については自分から行うことができるが、相手を見ずに行うことがある。</p> | <ul style="list-style-type: none"> アイロンなどの道具を使った活動やネット詰めなどの活動に30分程度取り組む。 相手の顔を見て「できました」と報告する。 | <ul style="list-style-type: none"> 一定の目標数を目指して、一定時間続けて活動に取り組む。 自分から相手を見て「できました」と報告する。 | <ul style="list-style-type: none"> 一回の作業活動の中でアップリケ付けを5枚、ネット詰めを5セット行う。 教師の顔を見て「できました」と報告する。 |

(3) 配置図 (被服室)



(4) 学習過程 (注: 指導上の留意点の四角の枠は目標達成にかかわる支援)

| 時間(分) | 学習活動 | 指導上の留意点 | | | | | | | | | | 準備物 |
|---------------|---|--|--|--|--|--|--|---|--|--|---|---|
| | | A | B | D | G | C | H | E | J | I | F | |
| | | しつけ縫い | | しつけ・ミシン縫い | ミシン縫い | ネット切り | ラベンダー詰め | ネット詰め・アップリケ付け | | 製品カード作り(紙すき) | 製品カード作り(印刷) | |
| T 1 | | T 6 | | | T 4 | T 5 | T 3 | | T 2 | | | |
| 9:50 (5) | 1 着替えをして被服室へ行き、準備をする。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分から準備を行いやすいように、使用する道具や部材をかごやケースに入れて名前を付けるなどしてまとめておく。 | | | | | | | | | | 名札ボード |
| 9:55 (5) | 2 身だしなみチェックをする。 | <ul style="list-style-type: none"> スムーズに作業に向かうことができるように、被服室に来た時にハンカチ、ちり紙を持ってきたかを確認する。 作業の意欲につながるように、ミシンや道具の準備ができた時には称賛する。 自分で椅子を準備できるように言葉かけをする。 作業への意欲につながるよう、名札を自分で渡すことができた時に称賛する。 意欲につながるように、準備を終えることができた時は称賛する。 意欲につながるように、準備を終えることができた時にはリボンを見せる。 時間通りに作業が始められるように、持ち物を確認する。 姿勢を正す時間であることが分かるように、手を膝に添える。 | | | | | | | | | | チェックボード 工程表 |
| 10:00 (5) | 3 あいさつをして、はじめの会をする。 | <ul style="list-style-type: none"> それぞれの担当の作業を頑張っ、たくさん作ろうという意識が高まるように、出来高表を使って前時までの個数を振り返り、本時のおおよその目標を決める。 作業に対する意欲を高めるために、本時の頑張張り発表の当番を確認する。(名札の所にマグネットを張っておく。) | | | | | | | | | | 作業日誌 (個別) |
| 10:05 (30) | 4 作業日誌を記入して、作業を始める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <かおり袋作り> 1 しつけ縫い 2 ミシンがけ 3 アップリケ付けとアイロンがけ 4 ラベンダー詰め 5 ネット切り 6 ネット詰めとラベンダー詰め <製品カード作り> 1 カード作り(紙すき) 2 印刷 </div> | <ul style="list-style-type: none"> 目標を意識して取り組むことができるように、前回の結果などを日誌で参照しながら目標の個数を決める。 日誌には、出来高の個数の記入欄とともに、「今日の目標」の欄を設けて、報告について気を付けたい点を意識しながら作業ができるようにする。 作業を続ける意欲につながるように、1枚できたら出来高表にシールを張る。 手順を示すカードをかごのそばに置く。 | <ul style="list-style-type: none"> 作業と休憩の順番や、しつけ縫いの手順が分かるように、手元に手順を示したカードを準備して一緒に声を出して読みながら確認をする。 針を刺す位置がわかりやすいように、補助線の端に印を付ける。 補助線一本分縫い終わったら報告をすることが分かるように、図と言葉で示したものを張っておく。 | <ul style="list-style-type: none"> 仕上がりの確認がしやすいように、布に補助線を引いておく。 完成したかを自分で確認することができるように、見本を用意する。 報告は教師のそばに来てから行うことができるように、作業日誌を書く時に位置や言葉を確認する。 失敗した場合やミシンに不具合が生じた時にも自分から報告ができるように、報告の仕方をカードに書いて手元に置く。 | <ul style="list-style-type: none"> 返し縫いを行う箇所がわかりやすいように、布に印を付けておく。 布の端まで縫うことを教師と共に確認することができるように、1枚完成するごとに報告と確認を行うことを作業の前に確認する。 報告や依頼が適切にできるように、どのような声の大きさで行うと良いのかを事前に確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> 集中して作業に取り組むことができるように、時計や人の動き、窓の外の人や物の動きが見えにくい位置で作業を行う。 報告に時間がかかる時は、報告することを思い出して教師と一緒に行動することができるように、言葉の最初の「で」と言葉かけをしながら、手を目前に出す。 | <ul style="list-style-type: none"> 集中して作業ができるように、壁側を向いて作業する。 作業の区切りを意識し、さらに自分で完成品を持って報告できるように、フィルムケースが入る容器(完成ボックス)を用意する。 | <ul style="list-style-type: none"> 今日の目標数を決めることができるように、前時の日誌を見ながら一緒に確認する。 続けて活動に取り組めるように、1回の作業が合格した際に、出来高表にシールを張り、称賛の言葉かけをする。 相手を見て報告や質問をすることができるように、事前に説明を確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> 一定時間続けて作業に取り組むことができるように、ネット詰めの次に楽しみなアップリケ付けを行う手順にしたり、好きなリボンの色を選ぶ時間を設けたりする。 相手を見て報告することができるように、事前にキーワードのカードと言葉かけを確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> 目標の個数と報告する時の言葉遣いを意識できるように、カードを用意して作業の前に一緒に書きこんで読み上げる。作業の途中にも、一緒に読んで確認をする。 紙すき器の枠内に材料が均等に入るように、材料を計量カップで測って3杯入れる方法で作業する。 | <ul style="list-style-type: none"> 文字が読み取れる濃さになるまではんこ押しができるように、補助具の取っ手にクッション状の布をかぶせる。また教師と一緒に押して力加減を伝える時間をもつ。 印字後の製品カードを収納することができるように、箱を用意する。活動の区切りと頑張りが分かるように、壁に掲示した出来高表にシールを張る時間を設ける。 | 布 ミシン糸 ミシン しつけ糸 手縫い用針 糸切りばさみ 裁ちばさみ 針山 ラベンダー スプーン 皿 フィルムケース エッセンシャルオイル カラマスレート 輪ゴム 果樹用ネット ペーパーカッター アイロン アイロン台 布用シール リボン 紙すき道具一式 印刷用具一式 |
| 10:35 (5) | 5 片付けを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 片付けの時間の開始が分かるように、リーダーが「片付けの時間です」と全体に伝える。 | | | | | | | | | | |
| 10:40 (15) | 6 掃除を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分から気付いて次の活動ができている時には、称賛して、次の活動への意欲を高めることができるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 取り組む順番がわかりやすいように、行う順番を示したボードを準備する。 | <ul style="list-style-type: none"> 一つの活動が終わってから全体に掃除の指示ができるように、副リーダーの報告を待つように話す。 | <ul style="list-style-type: none"> 掃除場所の隅を掃くことができるように、教師と一緒に確認しながら行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 掃除の時間の移動であることを意識できるように、ベルトを締めてから移動する。 | <ul style="list-style-type: none"> 拭き掃除を行う場所がわかりやすいように、テープで印を付ける。一箇所終わるごとにボードに印を張る。 | <ul style="list-style-type: none"> 友達とぶつからないで掃除のチェックを行うことができるように、周りに意識を向ける言葉かけをする。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分の清掃場所と回数分かるように机にテープを付けておいたり、終わりカードを準備しておいたりする。 | <ul style="list-style-type: none"> 自分から掃除に取り組めるように、清掃の順番を事前に一緒に確認する。 | <ul style="list-style-type: none"> 時間いっぱい掃除に取り組めるように、場所を指差したり、称賛の言葉かけをしたりする。 | ほうき ちりとり ペーパーモップ |
| 10:55 (5) | 7 日誌の記入をする。 | <ul style="list-style-type: none"> それぞれの頑張りを全体にも示すことができるように、日誌を記入した後に、黒板にある個人のコーナーに記入した日誌を張る。 | | | | | | | | | | |
| 11:00 (7) | 8 終わりの会を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 本時に完成した個数分かるように、全員で数を数え、出来高表にシールを張る。 | | | | | | | | | | |
| 11:07 (3) | 9 更衣室へ移動して、着替えをする。 | <ul style="list-style-type: none"> 本時の活動に対する達成感をもつことができるように、代表2名が頑張張り発表を行う。他にも頑張りが目立った生徒については担当の教師が挙手をして報告する。 | | | | | | | | | | |
| 目標に対する生徒の評価 | 記号 | | | | | | | | | | | |
| 目標に関わる指導の評価 | 記号 | | | | | | | | | | | |
| 評価の凡例 | : 達成された(目標達成のために適切であった・効果があった) : 達成されつつある(手立ての継続する必要がある・手立てを部分的に修正する必要がある) : 達成されていない(手立てが適切でない) | | | | | | | | | | | |